

## JP010 知床半島・斜里岳（しれとこはんとう・しゃりだけ）

北海道：斜里町、清里町、羅臼町、標津町、中標津町

位置	N 43° 59′ E 145° 01′
面積	123,000ha

### 環境構成【海洋／断崖／草原／森林／河川／湖沼】

知床半島は、オホーツク海に突出した長さ約 70km、基部の幅約 25km の細長い半島である。半島中軸には標高 1,660m の羅臼岳をはじめ、硫黄山、遠音別岳、海別岳などが連なり、山麓の針広混交林帯からダケカンバ帯を経て高山のハイマツ帯まで連続した原生的環境が残されている。海岸部は断崖や岩場が続き、ウミウやケイマフリ、カモメ類の営巣地となっている。海岸断崖上部の森林にはオジロワシが営巣し、冬期は多数のオオワシが渡来して越冬する。森林内を流れる溪流にはオショロコマ



写真：藤川友敬

などの淡水魚類が高密度で生息し、これら魚類を餌とするシマフクロウが繁殖している。半島基部には標高 1,547m の斜里岳があり、知床火山群と屈斜路・阿寒火山群とを結んでいる。標高 1,000m 付近からはハイマツ帯となり、多くの高山植物が自生する。羅臼岳・遠音別岳・斜里岳のハイマツ帯にはオオムシクイが繁殖しており、国内で繁殖が確認されているのはこの山系だけである。

### 選定理由

A1	オオワシ・シマフクロウ
A3	オオワシ・シマフクロウ
A4i	ウミウ・オオセグロカモメ

### 保護指定

サイトの全域（90%以上）に法的な担保がある

<保護指定の内容>

国指定鳥獣保護区（知床）、国立公園（知床）、都道府県立自然公園（斜里岳道立自然公園）、自然環境保全地域、保護林

<その他>

世界自然遺産登録地

## 保全への脅威

- ・ エゾシカ狩猟による鉛中毒（オオワシ・オジロワシ）
- ・ 希少動物の交通事故・感電事故（オオワシ・オジロワシ・シマフクロウなど）
- ・ 河川工作物による魚類への影響（魚食性鳥類への影響）
- ・ 希少種（シマフクロウ、オジロワシ、オオワシ）への観光目的餌付け。
- ・ かつて、海鳥営巣地付近の小型船航行によるケイマフリ繁殖への影響があったが、観光船事業者・行政・研究者等関係者による協議会が発足し、影響を回避する航行ルール合意やケイマフリの保護啓発活動が共同で行われるようになり、ケイマフリの営巣数に回復傾向が見られている。
- ・ ヒグマが海鳥コロニーに侵入し、営巣攪乱と幼鳥の捕食による影響が出ている。

## 鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化  
ウミウ・カモメ類の営巣数は減少傾向、シマフクロウ・オジロワシ・ケイマフリは安定ないし漸増傾向。
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有  
＜調査データの入手方法＞  
オジロワシ繁殖モニタリング調査：オジロワシモニタリング調査グループ  
オジロワシ・オオワシ越冬個体数：オジロワシ・オオワシ合同調査グループ  
ケイマフリ・ウミウ・カモメ類の営巣数：知床海鳥研究会  
シマフクロウ繁殖状況：環境省
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：  
変化がある：海鳥コロニー内へのヒグマの侵入と営巣攪乱
- ・ IBA 選定基準種の生息環境：  
普通（70～90%が最適の状態）
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：有

## 保全活動

- ・ 環境管理：実施者（公益財団法人知床財団、環境省、林野庁、斜里町、羅臼町）  
内容：世界遺産地域管理計画に基づき、各行政機関・地元各機関が環境管理事業を実施
- ・ 外来種のコントロール：実施者（環境省）  
内容：アライグマ生息状況調査・捕獲調査
- ・ 環境教育活動：実施者（知床財団、知床博物館、羅臼町教育委員会、斜里高校、羅臼高校等）

- 内容：地元小中学校におけるヒグマ学習、世界遺産体験学習など  
 地元高校における知床自然概論授業、野外観察や海洋生物学習、世界遺産学習、  
 知床 100 m<sup>2</sup>運動の中で知床自然教室開催、森作りボランティア活動、
- ・保全のための人材育成活動：実施者（知床財団、知床博物館、知床自然大学院大学  
 設立財団）  
 内容：知床財団・知床博物館：大学生実習・インターンシップの受け入れ  
 知床大学院設立財団：人材育成のための研修事業と高等教育機関設置活動
  - ・法律制定、政策、規制：実施者（環境省、林野庁、北海道）  
 内容：知床世界自然遺産管理計画策定、エゾシカ管理計画策定、ヒグマ管理計画策  
 定、知床海域管理計画策定、知床エコツアーリズム戦略策定、知床条例（道条例）策  
 定
  - ・モニタリング調査：実施者（環境省、林野庁、知床財団、民間グループ）  
 内容：世界遺産管理計画に基づく各種モニタリング調査（37項目、うち鳥類5項  
 目）
  - ・経済活動を通じた保全（エコツアーリズム等）：実施者（知床世界自然遺産地域適正利  
 用エコツアーリズム検討会議とその構成団体）  
 内容：知床エコツアーリズム戦略に基づき、観光事業やエコツアーリズム事業のチェッ  
 クが行われている。
  - ・その他：シマフクロウ保護増殖事業（環境省）

## IBA サイトの保全に関係する地域のグループ

- ・公益財団法人知床財団、日本野鳥の会オホーツク支部

## 見られる鳥

多様な生息環境に 284 種類の野鳥がこれまでに確認されており、オオワシ、オジロワシ、シマフクロウ、ケイマフリ等絶滅危惧種の生息地となっている。また海岸にはウミウやカモメ類の大規模コロニーがあり、周辺海域にはミズナギドリ類、ウミスズメ類、トウゾクカモメ類等の海鳥が見られる。森林にはクマゲラやオオルリ、高山帯にはオオムシクイやギンザンマシコなどが見られる。

留鳥	オジロワシ、クマタカ、ハイタカ、ノスリ、ハヤブサ、トビ、シマフクロウ、フクロウ、クマゲラ、ヤマゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、コアカゲラ、コゲラ、カワガラス、エゾライチョウ、キクイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス
夏鳥	チゴハヤブサ、コノハズク、アオバズク、ハイイロミズナギドリ、ハシボソミズナギドリ、ウミウ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ケイマフリ、オシドリ、ヨシ

	ガモ、ジュウイチ、カッコウ、ツツドリ、アマツバメ、ショウドウツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ビンズイ、オオジシギ、ヤマシギ、コマドリ、ノゴマ、コルリ、ノビタキ、イソヒヨドリ、マミジロ、クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、エゾセンニュウ、オオムシクイ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、ホオジロ、ホオアカ、アオジ、クロジ、ベニマシコ、マヒワ、イカル、シメ、ニュウナイスズメ
冬鳥	オオワシ、ケアシノスリ、シロハヤブサ、コチョウゲンボウ、コミミズク、コオリガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、ウミガラス、ヒメクビワカモメ、ワシカモメ、シロカモメ、キレンジャク、ヒレンジャク、ユキホオジロ、アトリ、ベニヒワ、ハギマシコ、イスカ、ワタリガラス
旅鳥	キアシシギ、ハマシギ、アカエリヒレアシシギ、トウゾクカモメ、ユリカモメ、ミツユビカモメ、アジサシ、ウミスズメ、ウトウ、ヒシクイ、タヒバリ
迷鳥	ヤツガシラ、ジョウビタキ

\* 知床半島の周辺海域は、マリーン IBA (Marine Important Bird and Biodiversity Areas : 海鳥の重要生息地) に選定されている。

詳しくはこちら <http://www.wbsj.org/activity/conservation/habitat-conservation/miba/>

### 関連団体・自治体・施設等

- ・ 知床自然センター
- ・ 斜里町立知床博物館
- ・ 羅臼ビジターセンター
- ・ 知床財団
- ・ 日本野鳥の会オホーツク支部
- ・ 斜里川を考える会
- ・ 知床世界遺産センター
- ・ 知床データセンター

N



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeCBASE, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community